

山口県鉄構工業組合が総会

益田理事長「厳しい時代、組合の役割重要」

52人参集 功労者・永年勤続表彰も

山口県内の鉄骨加工業者で構成する山口県鉄構工業組合(会員36社)は第52回通常総会を19日、山口グランドホテルで開催した。懇親会には組合員や来賓ら52人が出席した。役員改選に当たり、益田和男理事長(益田鉄工社長)・宮本直治副理事長(宮本鐵工所社長)の統投と、新副理事長に長井宏文長井工業社長が選ばれた。総会に先立っては、今月に逝



挨拶する益田理事長

去した岡田直矢副理事長(徳機製作所社長)に黙祷がささげられ、表彰式では長年、役員や副理事長を務めた組合への多大な功労に対し感謝状が贈られた。冒頭に登壇した益田理事長は「建設業界の環境は依然として厳しい状況が続ぎ、中東情勢の変化により、塗料やシンナーなどの高騰・供給不足を受けて現場の負担は高まり、日々の業務に直接的な影響が出ている。加えて慢性的な人材不足、技術継承の難しさ、安全対策など、各社が抱える課題は多岐にわたるが、このような時代だからこそ、組合として

の役割が一層重要になる。育成、安全体制の強化、情報共有、行政・関係団体との連携の充実、青年部の携を深めることで、組合企業を底上げし、地域の建設需要を支える存在であり続けなければならない」と語った。

今年度の組合方針として、資材価格高騰への情報共有、安全・品質のさらなる向上、DX・省力化設備導入への支援・情報提供、組合員相互の連携・協調や総会支援体制の強化など、実行性ある事業に重点を置いて運営する考えを示した。組合功労者・永年勤続者には表彰状と記念品が授与され、来賓者の挨拶へと続いた。懇親会では杉原由太郎同組合顧問の発声で乾杯後、青年部主催のミニゲームやビンゴ大会が場内を盛り上げた。最後は宮本副理事長による万歳三唱で盛会裏のうち散会した。